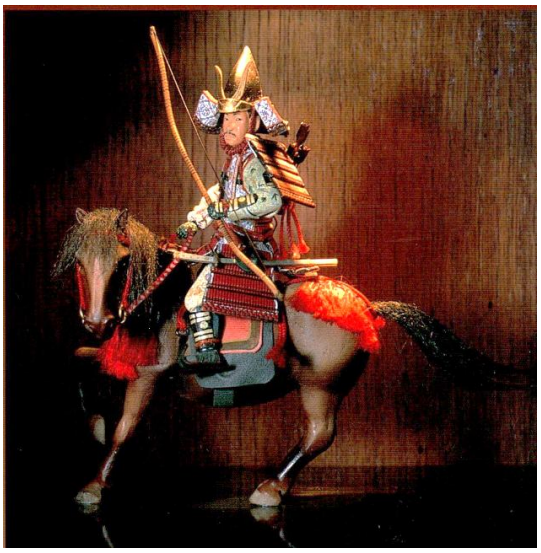
２０２６秋
難波田城だより
109号
—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—　NEWS from NANBATAJO
編集・発行
富士見市立難波田城資料館
令和８年９月１日発行

今号の内容

●知っていましたか？「昔の馬は小さかった」　●城跡シリーズ②「堀」
●体験「いろりの日」　●難波田城公園に移された石造物　●秋のイベント予定

知っていましたか？「昔の馬は小さかった」

市民学芸員　小森　和雄



資料館常設展示室のミニチュア像



『平治物語絵巻（六波羅行幸巻）』より
当時の馬の大きさが人の身長から推定できる
東京国立博物館研究情報アーカイブズ（http://webarchives.tnm.jp/）内画像データ
（https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/show/E0022169）を引用（2026/08/16 参照）

今年は「午（うま）」年です。

私達が普段目にする馬は、競走馬の「サラブレッド」や「アラブ種」、重い荷物などを曳く輓馬（ばんば）など、人の背丈を超える大きな馬がほとんどです。

しかし日本の馬が大型化したのは、明治政府が進めた西洋化政策によるものです。馬を西洋並に大型化させるため、日本在来種のオス馬の多くは断種され、西洋種との交配が進められました。

現在、日本在来馬としては「北海道和種（わしゅ）（通称道産子（どさんこ））」「木曽馬」「野間（のま）馬（愛媛）」「対州（たいしゅう）馬（対馬（つしま））」「御崎（みさき）馬（宮崎）」「トカラ馬（鹿児島）」「宮古馬（沖縄）」「与那国馬（沖縄）」の８種が知られています。これらは、神馬（しんめ）や離島などの理由で、交雑を免れた子孫で、体高（馬の大きさを表し、首の付け根から地面までの垂直距離で測定）は低く 120～130cm 程度です。

源平合戦の一ノ谷の戦いで畠山重忠が、愛馬「三日月」を背負って急な崖を下ったという逸話が『源平盛衰記』巻三十七にありますが、馬が小さいから出来た話でしょう。

難波田城資料館常設展示室には、騎馬武者のミニチュア像があります。開設当時の展示担当職員によれば「昔の馬と人間の関係を表すため、娘が乗った木曽馬の写真を参考に、この像を発注した」とのこと。当時の馬と人との大きさを良く表現している像だと私はガイドしています。

普段、在来馬を目にすることは難しいですが、上野動物園では野間馬、トカラ馬、与那国馬の３種を飼育展示しています。在来馬は、顔が大きく、その体型はずんぐり・むっくりです。是非一度対面してみてください。

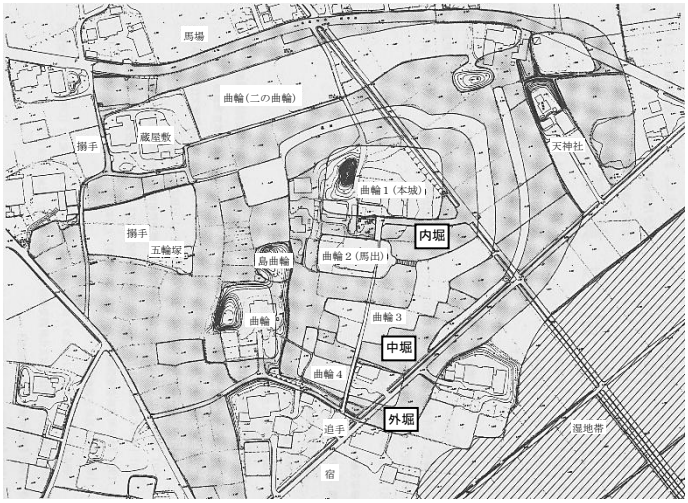
市民学芸員のページ　＊このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城　ちょっと拝見　みどころ紹介

城跡シリーズ②「堀」

難波田城公園の城跡ゾーンには中堀と内堀の一部が復元されています。江戸時代の城絵図を見ると難波田城は三重の堀に囲まれた平城(ひらじろ)でした。三重の堀は内堀、中堀、外堀と呼ばれ、城を敵の攻撃から守るためのものでした。堀の幅は最大約十五メートルと推定され、また底からは湧水があり水堀であったとされています。

日本における堀の歴史は古く、すでに弥生時代にあったことが発掘調査で確認されています。当初は集落を囲っており、その目的については多くの説があります。その後、戦乱が多い時代になると、敵から館や城を守ることが目的になりました。



富士見市文化財報告第 50 集「難波田城跡」より

堀には空堀(からぼり)と水堀(みずぼり)がありこれを分けて表記する漢字があります。さんずいの「濠(ごう)」が水堀、つちへんの「壕」が空堀となります。なお堀の幅は時代を経て広がる傾向があり、攻城兵器の発達が影響しているとの説もあります。

難波田城は鉄砲普及以前の築城であり、弓矢などを用いた戦闘を前提とした防御構造であったとも考えられます。（田中　聰行）

おもしろ・なつかし体験〔86〕

「いろりの日」

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

毎月第三土曜日の午後１時から３時に、ちょこっと体験として旧金子家住宅の囲炉裏(いろり)で火を焚(た)いています。

金子家は農業のかたわら油商を営んでいました。居室は江戸時代末期から関東地方の農家によく見られた四間取(よつまどり)と呼ばれる四部屋の形式です。油商を兼業していたので、広い土間がありました。

建物を公園に移築した際に、土間に面した上(あが)り端(はな)に囲炉裏を作り、開園当初はほぼ毎日火を焚いていました。その煙は茅葺き屋根の家屋を保全する役割を果しています。

ただ、来園者が多い土・日・祝日は安全性を確保できないことから、火を焚くのを中止しました。

しかし、来園者や市民学芸員から「雰囲気が出ない」「囲炉裏の火をみたい」という声は絶えませんでした。

そこで私たち市民学芸員が協力する形で「いろりの日」を始めることになりました。約 2 年の中止期間を経て平成 22 年(2010)8 月からのことです。

「いろりの日」は、昔の農機具を展示した土間で囲炉裏の火を囲み、気楽な雰囲気の中で来園者の方々と昔の暮らしの話などをして直接交流する重要な役割を果たしています。

今後もより良い交流の機会になることを目指して、各世代が喜ぶようなアイデアで、より楽しいイベントにしていきたいと思います。「いろりの日」に皆様とお会いできることを楽しみにしています。

（松村　利訓）



人の創ったもの★人の使ったもの

このコーナーでは、当館所蔵の資料や富士見市ゆかりの資料を紹介します。今ではあまり使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

難波田城公園に移された石造物

公園内にあるさまざまな石造物は、開発などにより元の場所での保存が難しくなり、移設されたものがほとんどです。今回は令和 8 年(2026)4 月に新たに寄贈された 5 基の石造物を紹介します。

馬頭観音と巳待供養塔　この二つの石造物は、鶴瀬東地区から難波田城公園内の水田横に移されました。

馬頭観音は、激しい怒りの表情を持ち、あらゆる魔や煩悩をうち伏せるとされます。また、頭上に馬頭を戴いていることから馬の守護神ともされました。移設された馬頭観音は、萩原源右衛門と嶋田万右衛門をはじめとする鶴馬村の谷津・柿沢の講中が、文化 8 年(1811)正月に建立しました。石祠の中に 3面6臂(3 つの顔と 6 本の腕)の座像が安置されています。手に剣や斧、宝輪、金剛杵をもち、正面の顔の頭上には馬頭もあります。

巳待講の人々は 12 日ごとの巳の日または 60 日ごとの己巳の日に集まりました。巳の日は弁財天の縁日でもあり、その姿を刻んだ巳待供養塔もあります。移設された供養塔は元禄 16 年(1703)に鶴馬村の人々が建てました。正面に「□□巳待(供)養為二世安(楽)也」(□は判読不能、括弧内は推測)と刻まれており、巳待供養を行い現世の安穏と来世の極楽往生を祈って建てたことがわかります。右側面の「南無阿弥陀仏」の文字も極楽往生を願って刻んだと考えられます。

十玉院ゆかりの石造物　江戸時代の難波田城図を見ると堀の中に「嶋」と書かれた小さな曲輪が描かれています。厄除稲荷宮・稲荷神社・辯(弁)財天の 3 基の石造物は島曲輪の推定地に建っていました。

厄除稲荷宮の右側面に「往昔之鎮坐(＝座)　山主誨弁記」(この稲荷は古からこの地に鎮座している。十玉院の住職誨弁が「厄除稲荷宮」などの文字を書いた)、稲荷神社の右側面には「往昔城中　守護誨弁記」(昔、この地は難波田城の中だった。それを守っている十玉院の住職誨弁が「稲荷神社」などの文字を書いた)と刻まれています。難波田城の廃城後、跡地には京都の聖護院を本山とする修験の寺「十玉院」が建てられました。誨弁は江戸時代末期の十玉院の住職で、墓石によると嘉永7 年(1854)7 月 13 日に亡くなりました。二つの稲荷には建てられた年が刻まれていませんが、誨弁の没年から江戸時代後期から末期のものと考えられます。なお、園内には「難波田直治郎之墓」と刻まれた筆子塚(供養塔)がありますが、誨弁は直治(次)郎の兄にあたります。

弁財天は明治 37 年(1904)6 月に建てられました。左側面には「上田氏」と刻まれています。上田氏は十玉院の住職の名字です。

十玉院は明治 5 年(1872)の修験道廃止の布告により姿を消しましたが、現在も難波田城公園に囲まれて歴代住職の墓があります。厄除稲荷宮・稲荷神社・弁財天は十玉院にゆかりがあることから、墓地に隣接した場所に設置しました。　(山野　健一)


馬頭観音


巳待供養塔



厄除稲荷宮



稲荷神社


弁財天

＊＊秋のイベント予定＊＊

掲載したイベントは、感染症の影響などで中止・変更となる場合があります。

●令和 8 年秋季企画展「空から見た富士見」

会期／10 月 24 日(土)～令和 9 年 1 月 11 日(祝)
会場／特別展示室　　**入場料**／無料

●富士見市児童・生徒「社会科展」

市内小中学生による、夏休みの自由研究の作品を展示します。各校から選ばれた約 80 作品です。
会期／10 月 1 日(木)～10 月 12 日(祝)

●ふるさと体験「お月見だんごづくり」

とき／9 月 20 日(日) 午前 10 時～正午
定員／6 組(申込み順)　　**参加費**／1 組 500 円
会場／旧金子家住宅　　**協力**／市民学芸員
申込み／9 月 1 日(火)～13 日(日)に電話で

●ふるさと探訪

川越街道大井宿跡周辺の文化財を訪ねて

とき／10 月 24 日(土)午前 9 時～正午
集合／ふじみ野駅西口　**定員**／20 人（申込順）
主な見学地／オトウカ山公園、旧大井村役場、上木戸跡、大井宿本陣跡、徳性寺、大井戸、大井弁天の森、東台金山公園(解散)
参加費／500 円(当日集金)
申込み／10 月 1 日(木)～22 日(木)に電話で
主催／資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

●さつまいも掘り

とき／10 月 25 日(日) 午前 10 時～、午前 11 時～（小雨決行。荒天時は次週へ延期）
集合／旧金子家住宅前　**定員**／各回 16 組(申込順)
参加費／1,500 円
申込み／10 月 3 日(土)　午前 9 時から電話で
主催／難波田城公園活用推進協議会

●古民家コンサート

アメリカ生まれの弦楽器マウンテンダルシマー

とき／10月25日(日)午後2時～2時30分
※1時30分開場
定員／30人(先着順)　　**参加費**／無料
会場／旧大澤家住宅座敷
申込み／当日会場で受付
出演／岡田正樹氏
主催／難波田城公園活用推進協議会

●麦づくり体験（全 7 回）

公園内の畑で小麦・大麦を育てます。育てた麦は小麦粉や麦茶にして試食・持ち帰りができます。

日程	内容
11月7日(土)	うね立て・種まき
令和9年1月23日(土)	麦踏み・土入れ
2月27日・4月10日(土)	草取り・土寄せ
5月23日(日)	麦刈り
6月12日(土)	脱穀
6月26日(土)	精選
7月11日(日)	製粉・焙煎・試食

定員／10 組（1 組 4 人以内、申込順）
参加費／1 組 1,000 円（食材費等）
協力／難波田城いきものがかり
申込み／10 月 1 日(木)から電話で

●ミニほうきづくり

とき／11 月 15 日(日) 午後 1 時～3 時 20 分
会場／講座室　**定員**／10 人(中学生以上、申込順。定員超は市内在住者優先)
指導／ほうき作り伝承会　**参加費**／1,000 円
申込み／11 月 1 日(日)～11 月 11 日(水)に電話で

●ちょっ蔵市（難波田城公園活用推進協議会主催）

9 月 27 日（日)ぼたもち
10 月 25 日（日)ふかしいも
11 月はお休み
※11 時より販売。売り切れ次第終了

田舎まんじゅう販売
第 1.3 日曜日 10:30～

●扇(おうぎ)だこ講習会(全 2 回)



とき／12 月 5 日(土)・6 日(日)
午前 10 時 30 分～午後 3 時
指導／富士見市扇だこ保存会
持ち物／エプロン(前掛け)、昼食
申込み／11 月 1 日(日)午前 9 時から電話または窓口で
定員／4 人(中学生以上、申込順)
参加費／1,000 円(材料代)　**会場**／講座室

※各イベントの詳細は広報「富士見」または資料館公式サイトを御覧下さい。

難波田城 FUJIMI MUNICIPAL MUSEUM
富士見市立難波田城資料館　TEL. 049-253-4664　Fax. 049-253-4665
〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1
https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryoukan/nanbatajo/index.html
◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始　開館時間／午前 9 時～午後 5 時
◇公園休園日／なし　開園時間／午前 9 時～午後 6 時（4 月～9 月）　午前 9 時～午後 5 時（10 月～3 月）
資料館公式サイト